

Enjoy Today

編集・発行
新津市教育委員会



ママさん、フレンドリートーク

教育問題
懇談会

新しい会員を迎えて、今年度の「ママさんフレンドリートーク」（新津市教育問題懇談会）が開かれました。

この会は、小林市長が主宰する女性だけの懇談会で、家庭や学校、地域の教育のあり方などについて、情報の交換や意見を出し合って、広く教育のことを考えていこうと、五回目を数えます。

今回の主題は「生徒の進路指導を考える」ということで、始めに市内中学校の進路指導の取りまとめをしておられる小林茂

先生（新聞中学校長）から話題提供をいただいて、懇談が進められました。

話題の中心は、将来への最初の大きな関門として立ちほだかり、親子ともども頭を悩ませている高校の進学問題でした。以下、主な意見などをご紹介します。（話題提供資料は別掲です）

「入れる学校」から

「入りたい学校」へ

□進路を決めるにあたって、先生からは協役になつてもらつた方がよい。

□「行きたくても行けない高校」と「行ける高校」の格差がありすぎる。

□高校へ入ってからも、むしろ

今春の 中学卒業生の動向

○平成5年3月の卒業生1,001人のうち、高等学校への進学者の割合は、96.9%という高いものでした。

○市内には3つの高校があります。ここに市内の生徒がどのくらいの割合で入学しているのかを見えますと、

- ・新津高校は52.6%が市内
- ・新津南高校は65.8%が市内
- ・新津工業高校は33.3%が市内

です

平均をだしてみますと、3つの高校の全入学者1,023人のうち、市内入学者は511人で、50%です。

○一方、定時制も含めて、市内の入学者と、市外からの入学者の推移を、年度ごとにみてもみえますと、ここ数年、市内の入学者の占める割合が減ってきていることがわかります。

区分 (年度)	市内 入学者	市外 入学者	市内の 入学者割合
62	604	403	60.0
63	596	391	60.4
元	560	403	58.2
2	547	415	56.9
3	523	421	55.4
4	511	458	52.7

業者テスト

廃止は不安

□児童・生徒に、自主性を持たせる教育を、小・中一貫して行わなければならない。

□業者テストは、ある程度の目安になる。なくなると困る問題だ。□子供自身、自分の能力の判断（比較）材料がなくなる。

問題ではないかと思う。やはり目的意識をもって、高校を希望すべきではないか。

□目的意識のない子供は、伸び悩みがあると思う。望みは大きく、現実（実力）は子供自身が一番よく感じているのでは。

□子供に夢やもつと選択の幅を持たせる進路指導の心がけが必要である。

「なにを学ぶ」 かが大切では……

□高校では、中途退学者が多いという。現実として、希望する高校とのギャップがあり、その結果なのでは。

□親の方が高校のイメージをつくり、プレッシャーをかけているように思う。

□子供の個性を伸ばす心掛けが大事だが、高校や大学の改革も進めないと「行きたい学校」にも困難をきたす気がする。「どこかへ行ける」のではなく「何を学ぶか」が大切と思う。

□親は不安を感じるが、子供はそう深刻に思っていないようだ。□偏差値がなくなった方が、むしろ個性が伸ばせるのでは。□親として、どうしたらよいのかわからない。

□とても不安だが、家庭の問題として考えざるを得ない。